

When someone tells you something / [that is true], but **intentionally** leaves out important information / [that should be included] / <for full comprehension on your part **to take** place>], they can create a false **impression**.
 That's called a half-truth / [which is not technically a lie], / but it's just as dishonest.

Diagram labels: S', V'1, O'1, O'2, 関係代名詞, V'2, 不定詞の副詞用法, S = someone, V, O, 関係代名詞, 前文の内容, 「~のような」, = a half-truth

内容Check!

- 問 次の各文が正しければ () に○を, 誤っていれば×を記入しなさい。
- Some people can deceive you by omitting important information from their story. ()
 - The woman won more than she had spent on the state lottery. ()
 - The woman told the writer how many tickets she had bought for the lottery. ()

覚えておきたい表現

■ those who ... 「…する人々」
 ℓ.1 : those who deliberately use aspects of the truth to deceive you and others 「あなたや他の人たちをだますために, 故意に真実の側面を使うような人々」
 ・ those who ... は those people who ... と同じ意味の表現で, 「…する人々」と訳す。

■ for ~ to do 「～が…するために」
 ℓ.4 : for full comprehension on your part to take place 「あなたが完全に理解するために」
 ・ for ~ to do の形では, for ~ が to 不定詞の意味上の主語。「あなたの側の完璧な理解が起こるために → あなたが完全に理解するために」と考える。
 ・ take place は「起こる; 行われる」。
 Ex. Healing will take place in no time. 「すぐに治るだろう。」

■ not A but B 「A ではなくて B」
 ℓ.10 : not one ticket but instead two hundred 「1枚ではなく200枚」
 ・ not A but B は「A ではなくて B」。通例, A と B は文法的に対等である。
 Ex. I did not step on his foot intentionally but by accident. 「私は彼の足をわざとではなく偶然に踏んでしまった。」

■ 関係代名詞の後ろに I think などが続く文
 ℓ.12 : this woman, who you thought was 'lucky' or 'fortunate' is, in fact, a huge loser 「「ついている」とか「幸運である」とあなたが思っていたこの女性は, 実は非常に大きな損をしている」
 ・ 関係代名詞の後ろに I think などが挿入されることがある。本文では the woman who was 'lucky' or 'fortunate' に you thought (あなたが～だと思っていた) が挿入されている。このような場合は, you thought を () でくくってみると考えやすい。
 Ex. The woman who I thought was his wife was actually his daughter. 「私が彼の奥さんだと思ったその女性は, 実は彼の娘さんだった。」

■ 動詞の代用の do (does ; did)
 ℓ.13 : she clearly left out important information and likely did so on purpose 「彼女は明らかに重要な情報を省き, そしておそらく故意にそうしたのでろう」
 ・ did so の did は left out の繰り返しを避けるための表現で, 代動詞とも呼ばれる。
 Ex. He doesn't play golf, but I do. 「彼はゴルフをしません, 私はします。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

- 導入
 真実から重要情報を故意に省くと, 真実とは異なるものになる。
 - 例1: ある女性の話
 ◆ ℓ.6 For example 「例えば: 例」
 ・ 女性は「1枚の宝くじが100ドルの当たりだった」と言い「幸運な」印象を演出。
 ◆ ℓ.9 In fact 「実際には: 主張」
 ・ この女性が買った宝くじは1枚ではなく200枚だった。
- (1)を繰り返す: 例1についての筆者の結論
- 購入した宝くじの枚数を話から故意に省き「損をした話」を「得をした話」に変えた。
 - これを half-truth と呼ぶ。厳密にはうそではないが, 不誠実である。

背景知識

●情報操作
 事実であっても, 伝える部分と省略された部分があるかによって, 人をだますことが可能になるという本文の主張に合致する行為は「情報操作」である。近年メディアリテラシーに関して, メディア(テレビ, ラジオ, 新聞, インターネットなどのマスメディアや, 電話, 手紙などのパーソナルメディアなどを含めたメディア一般)による情報操作に焦点が当てられる傾向にあるが, この情報操作はメディアを抜きにして直接的に個人レベルでも行われることがある。
 情報操作を, 情報の送り手にとっての場合と, 受け手にとっての場合とに分けて定義すれば, 送り手にとっての情報操作とは「直接, もしくはメディアを介して, 送り手の「意図した方向」へ受け手がその態度や行動を変えるようにとのもくろみの下に構成した「コミュニケーション行動とその結果の総体」となる。他方, 受け手にとっての情報操作とは, 自らの意図の有無にはかかわらず, 送り手からの情報の影響の下, 自らの態度や行動を変化させるという「コミュニケーション行動, およびその結果の総体」とであるとされる(川上和久『情報操作のトリック』)。
 本文で説明されている「だます」という意図は送り手のものであり, 送り手はそれに応じた情報の構成を行う。一方, そのような情報の受け手は送り手の意図どおり「だまされる」か, 意図に反して「だまされない」かのどちらかとなる。もちろん送り手には「だます」以外の意図もあるが, 多くの場合, 送り手は自分の利益になることを意図する。
 [深めたい人に] : 川上和久『情報操作のトリック—その歴史と方法』(講談社, 1994年)